

ECN110 経済理論 (マクロ)

2年 1,2クォーター

担当教員 飯田 健志

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 木曜日・2時限

授業概要

本講義の目標は、国民生活を安定化させたり向上させたりするための財政政策や金融政策の基本的な仕組みを理解することである。まずは、国民所得の諸概念やその決定要因について理解し、そのうえで、財市場、貨幣市場、労働市場の分析をおこない、これらの市場がどのように関連しているのか、また利子率や物価水準がどのように決定されるのか、を明らかにする。そしてこれらを明らかにした上で、財政政策や金融政策が国民経済に与える影響について学ぶ。

到達目標

学生は、

- (1) 国民所得の決定要因について理解する
- (2) 財市場、貨幣市場、労働市場の関連性について理解する
- (3) 財政政策と金融政策の基礎理論を習得する

期待される効果

経済学的な考え方が身に付く

身近な経済問題について、マクロ経済学の基礎理論を用いて議論できるようになる

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

中谷巖 (2012) 『第5版 入門 マクロ経済学』日本評論社

参考文献

伊藤元重 (2012) 『第2版 マクロ経済学』日本評論社

授業の方法

板書を中心に講義を進めるが、必要に応じてパワーポイントを使用する。

成績

20% 課題

20% 中間テスト

60% 期末試験

授業スケジュール

第1回：

マクロ経済学とは？

第2回：

国民所得の諸概念

第3回：

国民所得の決定要因 (45度線モデルと有効需要の原理)

第4回：

財政政策によって国民所得はどれだけ増加するか (乗数理論 1)

第5回：

公共事業か減税か (乗数理論 2)

第6回：

投資と利子率の関係 (IS-LM 分析 1)

第7回：

貨幣とは何か? (IS-LM 分析 2)

第8回：

貨幣市場と LM 曲線 (IS-LM 分析 3)

第9回：

財政政策と金融政策の効果 (IS-LM 分析 4)

第10回：

財政政策の副作用 (クラウディング・アウト)

第11回：

金融政策の考え方 (マネーサプライと信用創造)

第12回：

財・貨幣市場と総需要曲線 (AD) の導出 (AD-AS 分析 1)

第13回：

労働市場における古典派とケインズの考え方 (AD-AS 分析 2)

第14回：

労働市場と総供給曲線 (AS) の導出 (AD-AS 分析 3)

第15回：

財市場、貨幣市場、労働市場の関連性と政府の役割 (AD-AS 分析 4)

事前・事後学習

予習：教科書の該当する章を予習してくること (1 時間程度)

復習：毎回課題を課すので、課題を解きながら、授業内容を復習し疑問点を整理すること (1 時間程度)